

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。

- 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
- 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
- 総合選択制の長所を生かして、生徒の多様性に応じた教育活動を展開する。

2 中期的目標

1 進路実現をはかる学力の育成

(1) 「わかる授業」をめざし、創意工夫の授業改革に取り組む。

- ア. ICT機器・視聴覚機材を取り入れ、教材や指導法の工夫を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を創出する。
イ. 校種を超えた授業公開・研究授業を行い、授業アンケート等を活用して積極的に授業改善を図る。
※学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率(H27年度 60%)を、H30年度には65%以上にする。

(2) 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成をはかる。

- ア. 基礎学力診断テストを年2回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
イ. 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。
※学力診断テスト2年次のA・Bゾーン率(H27年度 12%)をH30年度には20%にする。
※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答80%以上を維持する。
※中堅私大の合格者(H27年度 3人)をH30年度に10人以上にする。

(3) エリアの教育内容を充実させる。

- ア. 生徒の諸能力(専門的な知識・自分で考える力・自分を表現する力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・理解力・物事を調べる力)の向上を目標としてエリア授業の充実を図る。
イ. エリア発表会を充実させることで、目的意識を持ってエリア授業に臨む姿勢を作るとともに、達成感を与える。
※3年生対象のアンケートでのエリア教育に対する満足度(H27年度は75%)を、H30年度には80%にする。
※3年生対象のアンケートで上記諸能力がついたかどうかの肯定的回答(H27年度は71%)をH30年度までに75%にする。

2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成

(1) 国際社会に通用するコミュニケーション力のある人材を育成する。

- ア. 海外修学旅行と海外語学研修を校内行事に位置づけ、参加を促進する。
イ. 海外の学校との学校交流を行う。

(2) 規範意識と環境意識を育成する。

- ア. よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、生徒指導の充実を図る。
イ. 校内環境の向上と、生徒の美化意識の向上を図る。
ウ. 入学当初のガイダンス・クラス開きを充実させ、安心できる居場所づくり・学校生活への定着の促進をおこなう。
エ. 模擬投票を全校で実施し、「政治的教養をはぐくむ教育」を推進する。
※学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率(H27年度 69%)を、H30年度には75%以上にする。

(3) 部活動の活性化を図る。

- ア. 1年生を中心に入部運動を推進し、2年次以降も定着をはかり加入率の向上をはかる。
イ. 部活動の活躍状況を地域に発信する。
※部活動の加入率(27年度 64%)を平成30年度までに68%にする。

(4) 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。

- ア. 「共に学び共に育つ」の理念を実現すべく、共生推進教室のシステムを確立する。
イ. 共生推進の生徒が、他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。
※H30年度まで、共生推進の生徒の進路決定率100%を維持する。

3 地域と連携し、社会に貢献する教育活動の展開

(1) ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る。

- ア. 「ESDパスポート」を活用して、生徒の社会貢献活動への参加を促進する。
イ. 社会貢献活動とおして自尊感情・自己有用感の向上を図る。

(2) 地元中学校、地域団体と連携し、中高連携体制を強化する。

- ア. 地元中学と連絡会議を持ち、連携して学力保障の問題に取り組む。
イ. 地域と連携した実習を積極的に行い、コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、地域行事に積極的に参加・協力し地域貢献の実績をあげる。
ウ. 支援学校、地元の高校・小中学校、地域コミュニティ、人権団体等との相互交流の機会を深め、地域ネットワーク事業を拡大する。
※学校教育自己診断の地域・異校種交流、社会貢献に関する3項目の平均(H27年度 60%)を、H30年度までに70%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・今年度は公開授業や研究授業の機会を増やした結果、「他の先生が授業を見に来る」という問いに対する肯定率が 54→74→79%と2年連続して向上した。視聴覚機器やコンピューターの活用については 51→65→72%、教え方の工夫については 52→66→68%、授業のわかりやすさについては 47→61→63%といずれも向上した。今後は家庭学習を習慣づけ、学習の定着をはかることが課題となる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒指導に力を入れているかという問いには90%以上が肯定している。一方で悩みや相談に応じてくれる先生が多いかという問いには52%の肯定にとどまる。カウンセリングマインドをもって個々の生徒に対応する必要がある。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・分掌、学年間の連携に対する肯定率が39%にとどまる。再編で教員数が減少していくが、組織改革のプロジェクトを作り、組織のありかたを見直す必要がある。</p>	<p>第1回 (6/27)</p> <p>○28年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケートは本人にフィードバックするべき。生徒に対しての返しが非常に大事。 昨年度の協議会の発言が取り入れられて自習室が設置された。どこにでもあるので、活用が大事。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則を守らせるとき、子どもとの話し合いをして決めていくべき。大人同士で決めるのではなく。 <p>第2回 (11/29)</p> <p>○授業改善の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングはただ、アウトプットばかり重視しがちである。元のところの知識が大事。 大学入試は知識のみでなく、今後、忍耐力・発想力・想像力を測る新しい形式がつくられていく。 授業改善シートを活用することで、見学する先生自身の振り返りがアクティブラーニングとなる。 <p>第3回 (2/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門コース制設置にあたり、生徒の希望が通るようにするため、早い段階から調整指導を。 本校の評価は高まっている。親の世代や中学校に対してさらなる情報発信をしてほしい。

府立北摂つばさ高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路実現をはかる学力の育成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改革 ア 授業指導方法の工夫 イ 校種を超えた授業公開・研究授業</p> <p>(2) 進路実現できる学力の育成 ア 基礎学力診断テストの実施 イ 生徒が進路へ積極的に取組むモチベーションを高める取組み</p> <p>(3)エリアの充実 ア 生徒の諸能力の向上の取組み</p>	<p>(1) ア・ICT等の情報機器や視聴覚機器を活用した授業づくりをめざした勉強会や研究授業を開催し、スキルアップをはかる。 ・学力保障委員会を核に、1・2学期にそれぞれ1回ずつ授業公開・研究授業実施、改善シート等を活用するなど教員間の研さんの機会を増やす。 イ・小中学校の公開授業や研究授業等に教員を派遣し、異校種間での授業研究を進める。</p> <p>(2) ア・基礎学力診断テストを4月と10月に実施し、前年度比も含めて学力定着度を測定・分析を行う。4月テストの結果向上のため宿題を多く与え、家庭学習を習慣化させるようにする。 イ・1年全員に大学見学バスツアー、2・3年生には学校合同説明会を行い、進路意識を高める。 ・進学講習とりわけ外部講師による英語講習への参加者を増やし、志望校合格を実現する。 ・看護・医療系希望者の説明会・模試を充実させ、進路実現を図る。 ・長期休業中、休日等に自習室を開放し、自学自習する態度を養う。</p> <p>(3) ア・エリア科目や自由選択科目で発表の場を増やし、表現力・プレゼン力の育成に取り組む。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業に工夫をしている」の項目の肯定率(H27年度59%)を、62%にする。 ・学校教育自己診断の「他の先生が授業を見学に来る」の項目の肯定率を75%(H27年度74%)にする。 イ・異校種の授業の参加教員25人以上(H27年度20人)</p> <p>(2) ア・基礎学力診断テストの上位率前年度比で5%上昇。 イ・学校教育自己診断の進路情報の項目の肯定的回答72%以上(H27年度69%) ・外部講師講習の参加者を15名(H27年度10名)にする。 ・中堅私大の合格者を5人以上(H27年度3人)にする。 ・看護医療系合格者を10名(H27年度5名)にする。</p> <p>(3) ア・普総選アンケートの表現力・プレゼン力の項目の肯定的回答を67%以上(H27年度64%)にする。</p>	<p>(1) ア・ICT等の情報機器や視聴覚機器を活用した研究授業を開催し、研究協議も活発に行ったが、勉強会は開けなかった。学校教育自己診断「授業に工夫をしている」の項目の肯定率は62%に増加した。次年度は勉強会を開催したい。(○) ・研究授業の機会を増やした結果、学校教育自己診断の「他の先生が授業を見学に来る」の項目の肯定率は79%となり目標を上回った。(◎)</p> <p>イ・小中学校や支援学校の授業見学会に参加しつつ、本校主催の研究授業に中学校教員を招き、異校種の授業の本校参加教員は42人に達した。次年度は科目を変えて研究授業を実施したい。(◎)</p> <p>(2) ア・春休みの宿題を増やし、4月テストの学力上位層は2・3年合わせて13名から24名へと倍増した。次年度は少し難易度の高い診断テストを導入する。(○) イ・学校教育自己診断の進路情報の項目の肯定的回答は76%に増加した。次年度は卒業生を招きたい。(○) ・外部講師による英語講習への参加者は現3年の平均で19名。次年度は形態を変えて定着をはかりたい。(◎) ・中堅私大の推薦・AO合格者数は8名に倍増。次年度は自習室の利用を推進したい。(○) ・看護医療系合格者数は10名に倍増。(◎)</p> <p>(3) ・普総選アンケートの肯定率は61%にとどまる。次年度は発表の機会を増やし、表現力を養いたい。(△)</p>
2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成	<p>(1)国際社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成 ア 海外修学旅行の成功 イ 海外の学校の交流受け入れ</p> <p>(2)規範意識と環境意識の育成 ア 生徒指導の充実 エ「政治的教養をはぐくむ教育」の推進</p> <p>(3)部活動の活性化 ア 部活動加入率の向上</p> <p>(4)共生推進教室の取組み</p>	<p>(1) ア・初めての海外修学旅行で現地大学生と姉妹提携している竹東高級中学との交流を深化させる。 イ・国際交流委員会と生徒会が中心になり、海外の学校を受け入れ、友好関係を築く。</p> <p>(2) ア・遅刻多数の生徒に対して、早朝登校・居残り指導を行うなどして生活習慣の確立を促し、遅刻者数の減少をめざす。 ・行政・警察・自動車学校と連携して「自転車免許講習」を実施し、3学年全体で「自転車運転免許」を発行し、自転車通学のマナーの向上を図る。 エ・大学や選管と連携し、全校生徒を対象に「模擬投票」を実施し、「政治的教養をはぐくむ教育」を推進する。</p> <p>(3) ア・体験入部デーを二日設けて、複数のクラブを体験させ、さらに1か月間仮入部期間を設定して新入生の入部を強く促す。中学生にも部活体験週間を実施し入学前から意識を持たせる。</p> <p>(4) ア・共生推進教室の3学年の実習先を確保し、とりかい高等支援学校と連携して進路先を確保する。</p>	<p>(1) ア・修学旅行の満足度調査の肯定率を80%以上にする。 イ・海外の学校を受け入れ、事後のアンケートにおいて交流生徒の満足度を80%以上とする。</p> <p>(2) ア・1・2学期の遅刻数を昨年度比10%減少させる。 ・雨天時の雨合羽着用率を80%(H27年度60%)にする。 エ・アンケートで「必ず投票に行く」と回答する比率を40%(H27年度27%)にする。</p> <p>(3) ア・入部率を67%(H27年度65%)に引き上げる。</p> <p>(4) ア・3年生全員の進路実現 ・実習先を10か所以上確保する。</p>	<p>(1) ア・台湾修学旅行は大成功し、生徒の満足度調査肯定率は95%で過去最高となった。次年度は国内旅行だが、豪州語学研修への参加を促したい。(◎) イ・台湾から新しい学校を受け入れ、3年連続で大成功し、満足度は80%を超えた。次年度も台湾から受け入れたい。(○)</p> <p>(2) ア・1・2学期の遅刻数は昨年度に比べ36%減少した。次年度は個別指導にも力を入れて防止に努めたい。(◎) ・雨天時の雨合羽着用率はおよそ80%と改善しているが次年度はさらなる向上をはかりたい。(○) エ・全学年で模擬投票を実施し、啓発に努めたが、アンケートの回答率は36%にとどまった。3年の参院選の実際の投票率は53.4%であった。次年度に衆院選があれば実投票率を引き上げたい。(△)</p> <p>(3) ア・入部率は62%にとどまった。次年度は入部率向上に向け、新たな方策を講じたい。(△)</p> <p>(4) ア・実習先は11か所確保し、1月時点での進路決定は1名で1名、他の2名は実習中である。次年度も全員の進路を実現させたい。(○)</p>
3 地域と連携し、社会に貢献する教育活動の展開	<p>(1)ユネスコスクールの活動を基盤にした、社会参画意識の育成 ア 「ESDパスポート」を活用した社会貢献活動の促進 イ 自尊感情・自己有用感の向上</p> <p>(2)地元中学校、地域団体と連携し、中高連携体制を強化 ア 地元中学との連絡会議の充実。 イ 地域と連携した実習、及び地域貢献 ウ 地域ネットワークの拡大</p>	<p>(1) ア・「ESDパスポート」を活用して、生徒に具体的な目標を持たせ、達成感を味わわせることによって、社会貢献活動への参加を促進する。 イ・東日本大震災の支援活動・募金運動・茨木地域清掃活動等の社会貢献活動をより多く設定し生徒の参加を促進させることで自尊感情・自己有用感の向上を図る。</p> <p>(2) ア・地元中学校向け出前進路学活のマニュアルを作成し、中高連携を推進する。 イ・エリア授業や自由選択科目で地域と連携した実習を積極的に行い、コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、部活動・生徒会・ボランティアの活動を通じて地域イベントに積極的に参加・協力する。 ウ・地元小中高の各学校や地域団体に教員・生徒を派遣しネットワークを拡大する。</p>	<p>(1) ア・「ESDパスポート」のユネスコ協会連盟からの表彰認定(30ボラン以上獲得)40名以上 イ・学校教育自己診断の社会貢献の項目の肯定的回答75%以上(H27年度74%)</p> <p>(2) ア・出前進路学活・出前授業合わせてのべ15校以上に講師を派遣する。 イ・学校教育自己診断「地域とかわる機会がある」の項目60%以上(H27年度51%)。 ウ・地域の会合・イベントにのべ200人(H27年度160人)を派遣。</p>	<p>(1) ア・表彰認定者は年度末45人で目標をやや上回った。次年度は地域社会に貢献する活動を拡大したい。(○) イ・東北に加え、熊本・鳥取にも支援の輪が広がり、学校教育自己診断の社会貢献の項目の肯定率は79%に増加した。次年度も引き続き支援活動を展開したい。(○)</p> <p>(2) ア・出前進路は中学校に定着し、中学3年生への派遣数は減っているが2年生対象が増加している。次年度はさらに連携校を増やしたい。(○) イ・授業における地域との連携は昨年度とほぼ同程度にとどまり、学校教育自己診断「地域とかわる機会がある」の項目の肯定率は昨年と同じ51%であった。(△) ウ・部活動が地域行事に積極的に参加したが、のべ参加者数は180人とどまった。(△)</p>